

放送ストリーミング情報収載

放送ストリーミング情報【2025No.393】（HP 収載）

分類：ネットストリーミング

局等：Digital Concert Hall

作曲家：ヨハン・セバスティアン・バッハ

曲名：ミサ曲口短調 BWV 232

演奏：ラファエル・ピション指揮ベルリンフィル

関連サイト：<https://www.digitalconcerthall.com/ja/concert/56357>

2025 年 12 月 21 日ベルリンフィル大ホールにおける演奏です。



ピションがバッハ「ミサ曲口短調」でベルリンフィルにデビュー

ひとりの偉大な作曲家が、晩年に自身の創作の総決算として生み出した傑作—それがバッハの「ミサ曲口短調」です。伝統的なミサ典礼の枠組みを超え、心を打つアリア、精巧なフーガ、壮麗な合唱曲に至るまで、バロック音楽の精髓を構成するあらゆる要素が見事に融合され、その過程でバッハは人間のさまざまな感情の旅へと聴き手を導きます。古楽演奏で著名な指揮者、ラファエル・ピションがこの作品で、ベルリン・フィルと初共演を果たします。

出演者は次のとおりです。

ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団 ラファエル・ピション

ニコラ・ヒレブランド・クセニア・プシュカルツ・トーマス・ベス・テイラー・エミリアーノ・ゴンザレス・トロヒュー・モンタギュー・レンドール・クリスティアン・イムラー・RIAS
室内合唱団

ミサ曲口短調はお馴染みの曲で、教会や小ホールでの演奏が通例ですが、ベルリンフィル大ホールでの大編成の演奏はどのようになるかが興味の焦点でしたが、合唱もオーケストラの分離と協和も問題なく、大ホールに響く通奏低音は明瞭です。

現代楽器に一部古楽器が加わっていますが、不自然さはありません。

ピシオンは若い指揮者ですが、スケールの大きな切れのよい指揮で伝統的な指揮とは違った演奏をリードしており、この曲の新しい演奏形態を表現しています。

オーケストラとソリストは紙の譜面ですが、合唱陣の前にはタブレットが配置され、タッチで譜面を進めており、このような面でも新しい演奏形態であることが分かります。

LAN 接続に OPT ISO BOX と電源交換した LAN iPurifier Pro を適用し、ABS-7777 からのクロック入力の Brooklyn DAC+に送り出し、PC と Brooklyn DAC+の間には USB アキュライザーに交換した結果、通例、教会や小ホールで演奏されることが多い、この曲の大ホールでの大編成の演奏が破綻なく展開されていました。







以上